

# JAPAN LEATHER AWARD 2011

受賞報告

## “つかいやすさが、美しさ”の極み10作品

「日本皮革産業連合会（JLIA）」主催の「Japan Leather Award 2011」では、日本在住のプロ／アマチュアの手作りから、国産のなめし革を使用した作品を幅広く募集しました。テーマは、「つかいやすさが、美しさ。～身に着けるニッポンの革2011～」。全国から多数届いた応募作品を、プロ審査員15名、一般審査員100名、さらにWeb投票を加えて厳正に審査。プロ8部門・アマチュア2部門の受賞作品が決定しました。

文＝高田沙織 [ドレミファ]、町田佳子、室田美々、Discover Japan  
写真＝中谷丸、測本智信、合田慎二、工藤裕之、木村真一、宮田幸司  
text: Saori Takada, Yoshiko Machida, Mimi Murota, Discover Japan  
photo: Maru Nakatani, Tomonobu Fuchimoto, Shinji Goda,  
Hiroyuki Kudo, Shinichi Kimura, Kouji Miyata

日本の皮革製品のNO.1を見極める

# プロ審査員の選評

JAPAN LEATHER AWARD 2011

2011年11月03日(いいレザーの日)、日本皮革産業連合会(JLIA)主催の「Japan Leather Award 2011」の審査発表会が都内で行われた。今夏より、オフィシャルサイト、ツイッターやフェイスブック、雑誌などの幅広い募集告知も手伝って、プロフェッショナル(紳士靴・婦人靴・メンズバッグ・レディースバッグ・雑貨・エコレザーの6部門)142作品、アマチュア(メンズ・レディースの2部門)49作品、合計8部門191作品が全国から集まった。その頂点に輝いたのは……、若き靴職人だった。



1

1) グランプリを受賞したのは靴工房MAMMA・菅野光広さん。報道陣に囲まれた中、トロフィーと花束を受け取った。2) 審査員長の横山勉さんを筆頭に、10月初旬、都内で厳正な審査会が実施された。3) 一般審査員の審査風景。2日間で100名の方々が参加



2

3



横山 勉さん  
阪急阪神百貨店 執行役員

「ジャパンレザーアワード2011」審査員長に就任。これまでの経験で培ってきた視点で、プロ/アマチュアの応募作品を審査。www.hankyu-dept.co.jp/nishinomiya (12月13日まで受賞作品の展示・販売を実施中)

総評

じっくりとすべての応募作品を審査させていただきました。総括的な印象は、プロ以上にアマチュアの作品がおもしろかったということ。クリエイションの面で素晴らしいので、次回を目指し、さらに腕に磨きをかけてください



佐藤 行近さん  
西宮阪急 店長

西宮阪急の店長を務める佐藤さんは、お仕事柄、世の中の商品ニーズや気運を的確につかんでいる。その視点で審査を実施。www.hankyu-dept.co.jp/nishinomiya (12月13日まで受賞作品の展示・販売を実施中)

総評

天然素材である革の味わいの表現が奥深く、感心いたしました。技術だけでなく、心まで感じられる作品も多かったです。応募者の方のものづくりに対する情熱と技術に、顧客の視点が入ればさらにグレードアップすると思います



池田 成信さん  
阪急阪神百貨店  
紳士洋品・雑貨担当部長

阪急阪神百貨店の紳士洋品や雑貨のバイヤーとして、つくり手の現状とユーザーのニーズをバランスよく理解している。www.hankyu-dept.co.jp/nishinomiya (12月13日まで受賞作品の展示・販売を実施中)

総評

「自分の好みでつくる」という前向きな気概がアマチュアの皆さんの作品から強く感じられ、プロの作品以上に楽しめました。革はたいへん興味深い素材なので、「この素材でこの斬新なデザイン」など挑戦を絶やさないでください



藤本 孝夫さん  
エバーグリーンワークス代表

手仕事の大切さを提唱した19世紀のアーツ&クラフツ運動のスピリッツを受け継ぎ、伝統ある革の職人技と現代の感性を融合させたハンドクラフトのブランド“ARTS&CRAFTS”を展開している。http://egw-inc.com

総評

プロの応募作品はベーシックにまとまりがちという印象でした。アマチュアの作品の中には安心感のあるものも一部ありましたが、全体におとなしく、もっとクリエイティブな作品をどんどん提案してもらいたかったです



千田 聡さん  
クレーアーヴェ代表

大人が持たくなるようなクラシックでモダンな皮革製品を、デザイン・製造・販売している。皮革の醍醐味に誰よりもダイレクトに精通した視点で、本年の審査会に参加いただいた。http://galleriant.com

総評

全体を眺めると、アマチュアの作品群に、自分の個性や世界観などの伝えたいものがある作品が多かったように思います。昔、私が学生の頃はこういった場がなかったので、この有意義なアワードが未永く続くことを願っています



**小湊千恵美さん**  
『Fashionsnap.com』編集長

ファッションWebメディア『Fashionsnap.com』編集長。国内外のファッションニュースやスナップなど、最先端の情報を発信している。ファッションの視点で、日本の革の審査に望んでいただいた。www.fashionsnap.com

総評

アマチュアの作品にはユニークなものも多く、将来への気合を感じる作品もありました。個性重視の作品もいですが、反面、極限のシンプルの中でデザインするという作品にも、難しいですが挑戦してみてください



**日野明子さん**  
クラフトバイヤー

日本各地の手仕事や地場産業と、百貨店やショップなどをつなぐクラフトバイヤー。スタジオ木瓜代表。著書『うつわの手帖(1) お茶』、『うつわの手帖(2) ごはん』(ラトルズ)。http://utsuwacafe.exblog.jp

総評

「何通りも使えます」と細工を施した作品も多かったのですが、深いモノづくりが革にはあっている気がします。日本人は経年変化を好みます。焼き物や漆と同じく、革の経年変化を楽しめるような作品になるといいと思います



**セキユリヲさん**  
グラフィックデザイナー

雑誌『みつゑ』のアートディレクションをはじめ、暮らしの雑貨やお菓子のパッケージなど幅広くグラフィックとテキスタイルデザインを中心に活躍。色彩とあたたかみを図案で豊かに表現する。北欧に造詣が深い。www.salvia.jp

総評

応募テーマを基にアイデアありきで見たとき、発想の斬新さで際立ったのがアマチュアの方の作品です。革素材の性質+アイデア+技術のバランスがプロ作品よりもおもしろい。革本来の上質さを作品にも活かせるといいと思います



**齊藤美絵さん**  
ラジオパーソナリティ

湘南とハワイを愛するラジオパーソナリティ。ハワイの食にも詳しくフードマエストロの資格をもつ。Fm yokohama『WE LOVE SHONAN ~our native shore~』(日曜13:00~17:45)等。http://ameblo.jp/miesaito

総評

プレゼントに革製品を選ぶことも多かったのですが、こういった革グッズもいいんだという驚きが応募作品にはたくさんありました。つくり手の思いが伝わりましたし、エコレザー部門には購入したい作品もいくつかありました



**石田香代さん**  
粋更 ブランドマネージャー

奈良で江戸時代から手紡ぎ手織り麻を扱う中川政七商店が手掛けるライフスタイルブランド『粋更 kisara』のブランドマネージャー。日本の逸品の目利きとして、今回の審査会に参加いただいた。www.yu-nakagawa.co.jp

総評

「つかいやすさが、美しさ」のテーマに沿うためか2~3ウェイの作品が多くありましたが、ゆえにブレが目立ったのが残念でした。プロと違い、アマチュアの作品はコンセプトとモノのつながりがますますくなものが多くありました



**高橋俊宏さん**  
『ディスカバー・ジャパン』編集長

日本の魅力を再発見するべく、北から南まで奔走中。日本の地方の豊かさや素晴らしさを、奇数月6日発売の雑誌『ディスカバー・ジャパン』を通じて発信している。革製品は国産を愛用中。www.sideriver.com/discoverjapan

総評

今までにない、革の新しい作品を求めて選ばせていただきましたが、全体に既成概念の枠内の作品が多かったようにも感じました。出来栄では、プロの方の作品のクオリティは高く、革の未来を感じることができました



**濱島雄一郎さん**  
『日本の革』編集長

編集長でありながら、日本の革の生産地に誰よりも足を運び、革製品の背景事情に最も精通している編集者。革の専門誌『日本の革』の発行を重ねるごとに、皮革業界のご意見番のような立場を得つつある。www.sideriver.com

総評

毎年、全作品に触れさせていただいている「ジャパンレザーアワード」。今年は例年以上に、タンナーの方々のつながりを感じさせる作品が増えてきているように感じました。日本の歴史ある皮革文化のいまを、再確認できました



**小川高寛さん**  
『ライトニング』編集長

アメカジカルチャーを伝える月刊誌『ライトニング』編集長。ライダーズなどの革製品ファンでもあり、目利きでもある。北米の革製品が実はメイドインニッポンだったなど、革の知識も満載。www.sideriver.com/lightning

総評

アマチュアの方の作品は面白く、特に女性応募者に興味深いものがありました。プロの方の作品は、贅沢をいえば、その商品に革を使う必然性を含めて、もっとクリエイティビティを実感させてほしいという感想を抱きました



**清水茂樹さん**  
『リアルデザイン』編集長

プロダクトデザインを主に扱う月刊誌『リアルデザイン』編集長。モノへの愛情とこだわりが強く、カメラ誌『カメラマガジン』、『F5.6』、文房具誌『趣味の文具箱』などの編集長も歴任する。www.sideriver.com/realdesign

総評

アマチュアの作品からは、作る楽しさが感じられました。一方、プロの作品からは確かな技術力が感じられ、欲しくなる雑貨も幾つもありました。この審査会では、日本の革素材は世界トップクラスの技術があると実感できました



**赤瀬浩成さん**  
メイド・イン・ジャパン・プロジェクト代表

日本国内の産地やものづくり企業のプロデュースを行い、地域活性化に貢献しているNPO法人代表。日本の地域文化を守るため、実店舗やネットショップを通じて販路も用意している。www.mijp.co.jp

総評

プロのメンズ・レディースバッグ部門には、クオリティの高さを感じました。エコレザー部門もよかったという感想を抱きました。雑貨部門は革市場の可能性が高いので、もっとアクティブな商品が見たいと思います



皮革の主要生産地・たつの市発  
美しきハンドソーンの  
革靴づくり

日本の皮革産業を牽引する主要生産地のひとつに、兵庫県たつの市がある。ここに、ジャパンレザーアワード2011グランプリを受賞した、若き才能にあふれる革靴職人がいた。一針ずつ手縫い（ハンドソーン）する手仕事の現場を訪ねた。

GRAND PRIX  
グランプリ受賞者 菅野光広さん

ただいまハンドソーンの真つ最中



# 革靴への情熱を“手染め”で表現



1

1) 手染めによって複数の染料を重ね、情熱的な赤色をつくり出した。2) 田んぼを眺められるミシン部屋で、トゥ（つま先）の革にメダリオンを打ち込む。3) かぎ針で丁寧に仕上げるハンドソール。4) これがハンドソール完了時の靴の裏。5) 登山靴から女性靴まで幅広いラインアップを製作。6) サポートをする父の龍雄さんと工房の前にて



6



5



4



3



2

グランプリ受賞&紳士靴部門賞



ジャパンレザアワード  
2011のグランプリを受賞  
した菅野光広さんの工房は、日  
本有数の皮革の街である兵庫県  
たつの市にある。たつので育つ  
たことで革靴づくりに自然に憧

「Mitsuhiro Sugano」

「長く愛される靴」と「革への情熱」  
をコンセプトに製作。「長く愛される」  
をハンドソーンの丁寧な仕事による履  
きやすさと経年美で、「情熱」を赤色  
で表現した。表革、裏革ともに一枚革  
なのもこだわり

れ、高校生の頃には神戸の靴職  
人の工房に出入りをはじめた。  
「高校を卒業してすぐドイツへ  
修行に行きました。ずっと、足  
を補正することで健康になれる  
ような革靴をつくりたくて。整

形外科靴の技術を学ぶため、ド  
イツと行って行きました」  
ドイツの整形医療の盛んなフ  
ロイデンシュタットで5年、北  
海道で2年、神戸の紳士靴と婦  
人靴のメーカーで1年ずつ修行

ニッポンの革と  
ドイツ解剖学に  
基づく  
デザインの結晶

した。縫製、デザインなど、そ  
れぞれの修行先の得意分野を徹  
底的に習得して、ようやく靴づ  
くりのすべての工程を学んだと  
実感できたのが2008年。  
光広さんは自宅の一角に、靴工  
房MAMMAを立ち上げた。

ジャパンレザアワードに初  
参加した今年、彼の応募作品の  
出来栄えは大きな話題となった。  
国産のコシのよいキップ（生後  
6カ月〜2年の牛革）の一枚革  
を使い、靴の表と裏の継ぎ目は  
かかと側に1カ所だけつけるこ  
とで足への負担を軽減した。赤  
色の繊細なグラデーションの表  
現は独自の手染めで実現。ハン  
ドソーンにこだわることで、美  
しく履きやすいメイドインニッ  
ポンの革靴が誕生した。



菅野光広さん

MITSUHIRO SUGANO

DATA

靴工房MAMMA  
住所：兵庫県たつの市揖保川町野田252  
Tel：0791-72-4303  
www.eonet.ne.jp/~kutu-mamma

選評

全作品の中で一番美しい。婦人靴も見てみたい  
(30代女性)。硬質さと革の発色のバランスが素晴らしい  
(30代男性)。色が素敵、スーツがシンプルでも足元がこれならお洒落 (30代女性)



婦人靴部門賞

「ちゃけちよけ」

見た人が思わずクスリと笑ってしまうようなデザインを心掛けています。1) 企画から素材選びまで一人で手掛ける。2) 木型づくりの経験もあり、自分でつくれるからこそ生まれる発想がある。3) 遊び心あるデザインに、固定ファンも多数



倉田彩加さん

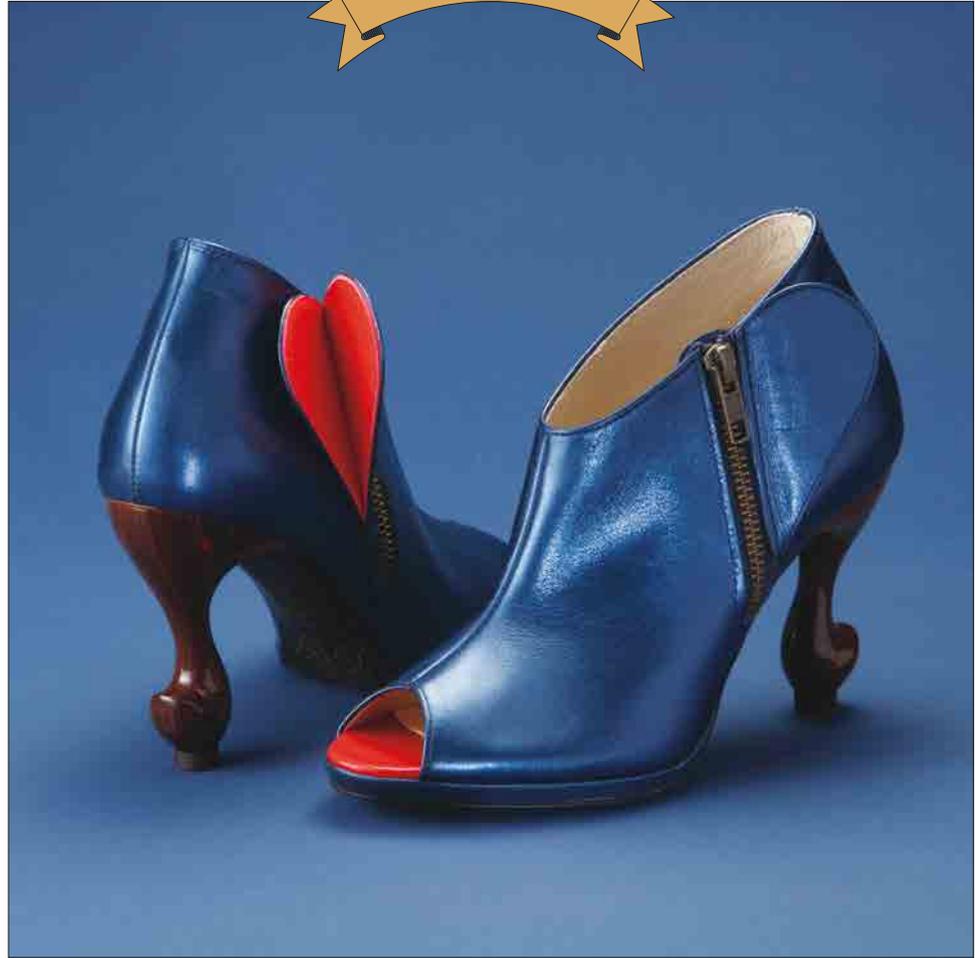
AYAKA KURATA

選評

トゥや折り返しのレッドの遊び心がいい (30代女性)。色がお洒落、ファスナーなので実用性もよさそう、斬新なヒールも美しい (30代女性)。猫足家具のようなヒールで歩くのが楽しそう (30代女性)

DATA

神戸レザークロス 東京支店  
住所：東京都台東区  
東浅草1-8-11  
Tel：03-3874-5117  
www.kobe-leather.co.jp



2

1



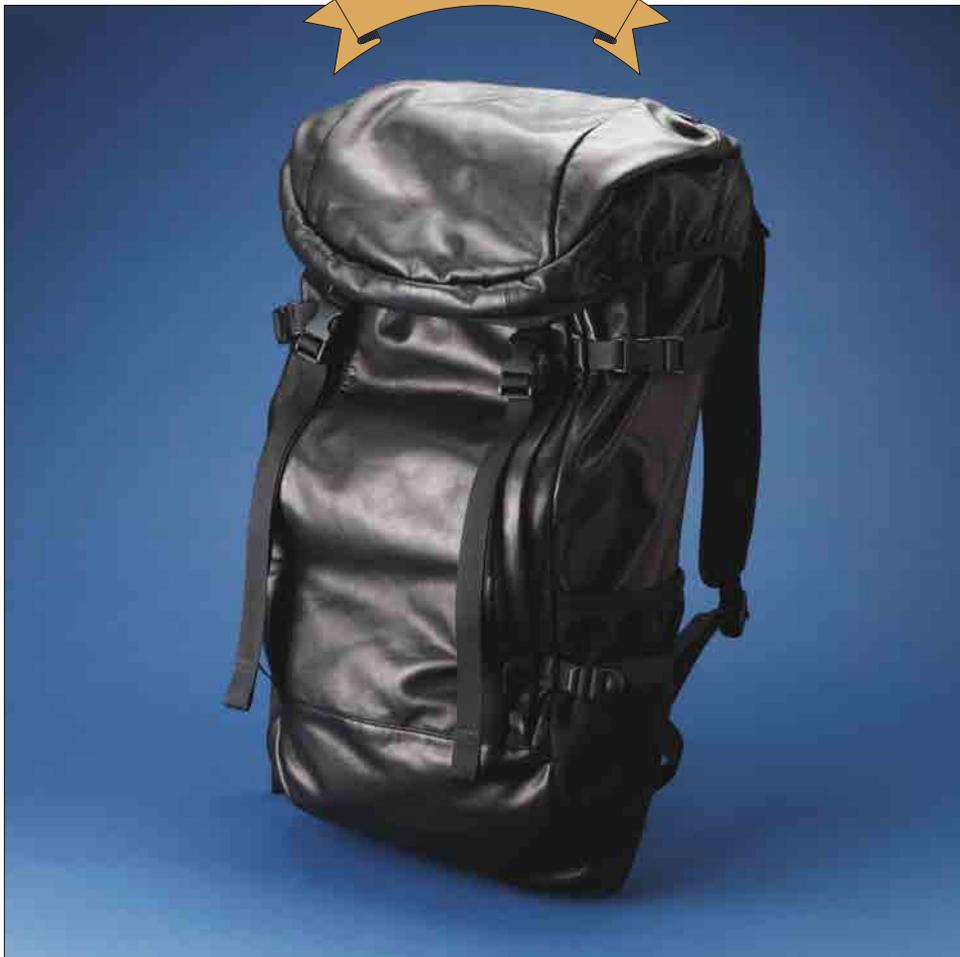
3

## ついつい、人に話したくなるストーリー

関西弁で、おちゃらけるを意味する「ちよける」をもじったブランド名「ちゃけちよけ」。シーズンごとに設ける個性的なストーリーなど、本作にはそんなキツネで愛嬌のあるノリが凝縮されている。「主人公は、ロックスターに憧れるサラリーマンです」と倉田さん。キュッと尖ったトゥにそんな気概が表れているかと思いきや、サイドの飾りをめくると真っ赤なハートがちらり。「ラブラブな恋人がいるという設定なんです」とのこと。

「おもしろいけど、歩けるの？ なんて聞かれたりしますが、歩きやすさは大切にしています」。アンティーク家具の猫足をモチーフにしたソールも、安定感のある設計。「家族の一員として長くつき合ってほしい」という倉田さんの思いが、人間味あふれる主人公や、歩きやすさへのこだわりにつながっているようだ。

メンズバッグ部門賞



「PORTER(ポーター)」

撥水加工を施すことで、雨水に強くより丈夫に仕上がった。  
1) 手作業による仕上げで一枚一枚表情豊かな革を使った商品。2) 受賞作に使用した革は、とても軽くしなやか。3) 何度も加工を施して、独特の風合いを生み出した商品



加治京造さん  
KYOZO KAJI

選評

全作品の中で一番欲しい、手触りも使い心地すべてよかった(30代男性)。革が柔らかく、身体にフィットして気持ちよさそう(30代女性)。大きめの革リュックなのに軽いのがいい(40代女性)

DATA

吉田  
住所：東京都千代田区  
東神田1-17-6  
Tel：03-3862-1021  
www.yoshidakaban.com



2



1

## 軽く、機能的。レザーリュックの可能性

「使いたい革素材をどう生かすのか。それがいつも出発点です」。そう断言するほど、とにかく革が大好きという加治さん。しかし、本作をつくるきっかけは少し違ったようだ。箪を置く老舗鞆メーカー吉田で10年にわたって人気を集めるナイロン製のリュックサックがある。「たくさんモノが入るんだけど、黒一色ですっきりとしたフォルムに心惹かれました」。この商品をベースに、革でつくったらどうなるのか……、好奇心にかられた。

ポケットや調節ベルトはできる限り省いてシンプルに、薄く柔らかい牛革で仕上げた。そこに異素材を組み合わせていった。「ナイロン素材の一部を使用しました」。背にもナイロンメッシュを使用し、クッション性を高めたという。革と異素材の組み合わせが功を奏し、大型ながら軽く機能性の高い本作に結実した。



3

レディースバッグ部門賞

「Jasmine」

連続するパイソンの模様  
の美しさやリボンのたゆみで表  
される曲線が個性的な魅力を  
発揮。1) リボンは革のよさを  
生かしつつ、細かい曲線や微  
妙な角度を調整。2) 修正を  
重ねたラフスケッチ。3) 熟  
練の職人による丹念なものづ  
くり



中谷隆之さん

TAKAYUKI NAKATANI

選評

触れると柔らかく軽く、さら  
にリボンと実はフェミニンな  
点が好き (30代女性)。パイ  
ソン革なのにリボンでハード  
になり過ぎないのがいい (30  
代女性)。持ち手を肩に掛け  
られて安心 (30代女性)

DATA

ベレサッカ  
住所：大阪府大阪市生野区  
新今里7-3-5  
Tel：06-6752-7890  
www.pellesacca.co.jp



2

1



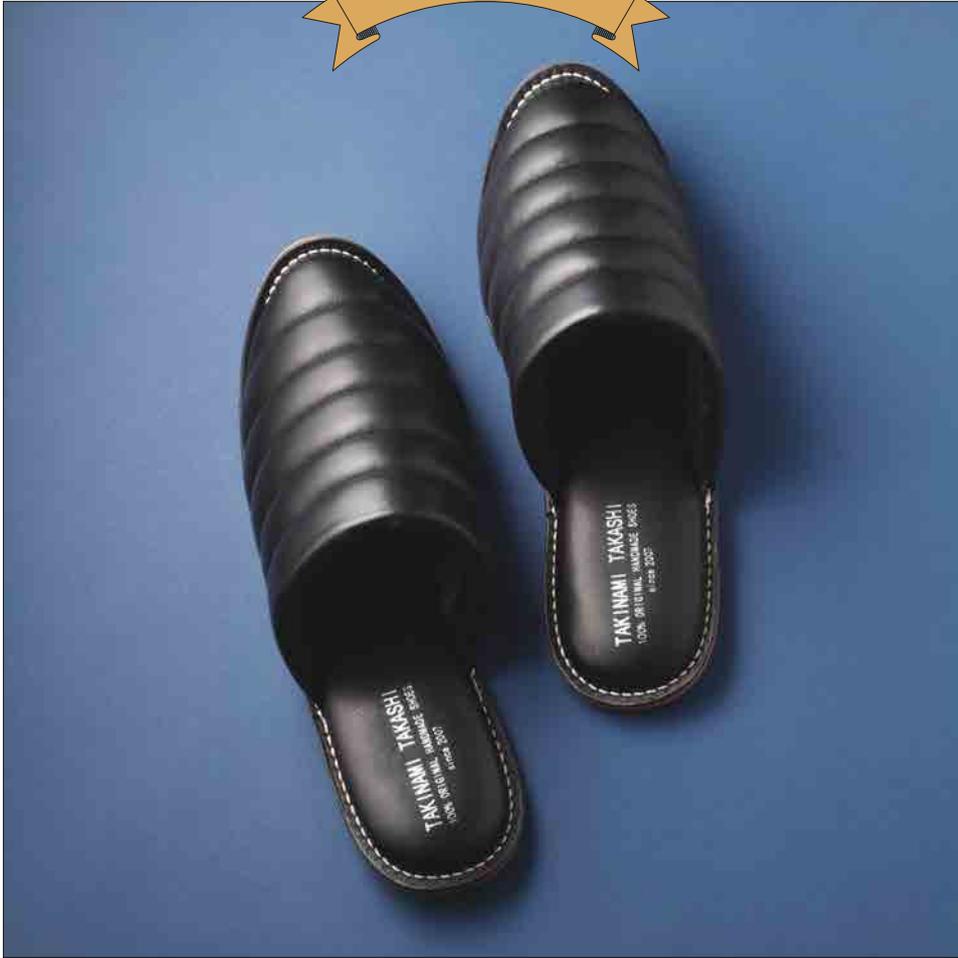
3

## 贅を尽くした、妥協なきクオリティ

老舗バッグメーカーとして50年の歴史をもつ職人集団ベレサッカが、今春立ち上げた「Jasmine」はエロス&エレガンスをコンセプトにしたブランドだ。ラグジュアリー感漂うこのモデルでは、贅沢にもパイソンを両面に配し、マチには柔らかさを出すために、しなやかな質感で仕上げたディア調の牛革を使用している。

デザインのポイントとなるのが、フロント部の揺らめくりボン。「ボリュームのあるたゆみを出すのに苦労しました」と中谷さん。持ち手も肩に掛けられて自立もできる絶妙の長さを取り、小判底の裏のかたちに合わせ、中のスペースを中袋で殺さないようにするなど丁寧な縫製がなされている。「爬虫類の革にリボンモチーフを前面に使い、ゴージャスな女性らしさが表現できました。今後はブランドのイメージを定着させていきたいです」。

雑貨部門賞



「TAKINAMI TAKASHI」

思わず触りたくなる、しなやかなフォルムと質感。1)「個人だからできることに挑戦したい」と瀧浪さん。2)色、デザイン違いなど、どれも靴さながらの4サイズ展開。3)全工程を自身で作業できる道具が工房には詰まっている



瀧浪 孝さん

TAKASHI TAKINAMI

選評

革のあたたかみを感じる（40代男性）。オフィスでも人前でも恥ずかしくない一足（30代女性）。つま先が上がっているのでつまずかなくて安心（60代女性）

DATA

TAKINAMI TAKASHI  
住所：東京都台東区  
橋場 1-36-2  
浅草ものづくり工房203  
Tel：03-6458-1166  
www.takinamitakashi.info



2



1

## 靴職人がつくるスリッパは、ひと味違う

見た目の印象を裏切らないふわっとした履き心地と、足をしっかりと包む安心感。スリッパとは思えない、贅沢な作品だ。「今までにない履き心地に、皆さんびっくりするみたいです」と瀧浪さん。外側を靴用のミシンで縫うことでスリッパらしからぬ風格が生まれ、より丈夫に仕上がった。一から十まで一人でつくり上げる靴づくりのノウハウが、そこに生かされている。

一般的にスリッパといえば消耗品だが、本作は履き続けるほどに足に馴染む。まるで、エイジングを楽しむレザーシューズのようだ。しなやかな牛革でなめらかな曲線を表現し、ツヤのある高級感を出した。家で楽しむファッション小物として、スリッパの地位を格上げする本作。「自分がおもしろいと思えるものをつくり続けたい」という瀧浪さんの意気込みを感じる作品だ。



3

【LA TERRA VERDE(緑の地球)】

環境に配慮した羊革のエコレザーを使用したイヤーマフ。  
1) 地元・草加市のタンナーでエコレザーを選別する和田さん。2) 職人の工房で縫製方法を打ち合わせ。3) 型抜き後はキズや色ムラがないか一枚一枚チェックを怠らない



和田義治さん  
YOSHIHARU WADA

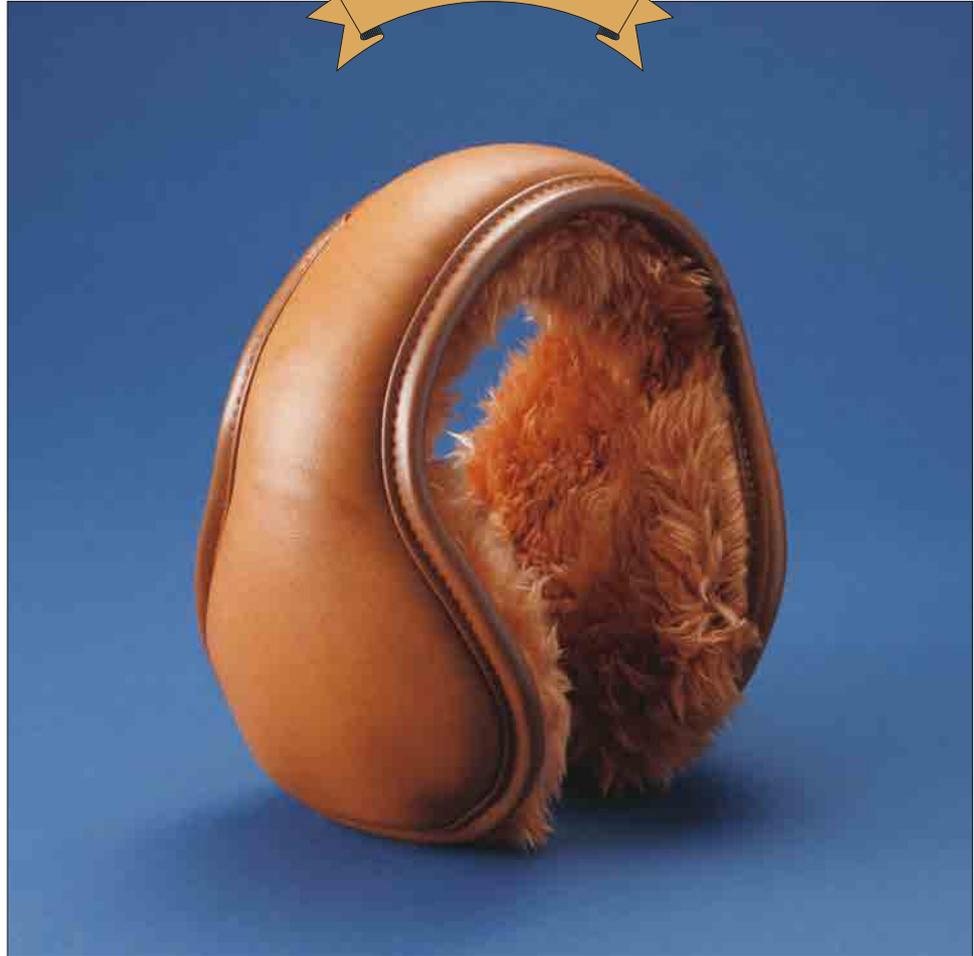
選評

触っていてとても気持ちよかった、肌に触れるものだから(20代女性)。革もファーも柔らかくてあたたかみが素敵(20代女性)。曲線のデザインと、革とファーの融合が素晴らしい(30代男性)

DATA

ラ・ジョイア  
住所：埼玉県草加市谷塚町  
1-11-7 コーネル谷塚105  
Tel：080-5547-4486

エコレザー部門賞



2



1



3

## ECOにつなげる皮革イヤーマフ

自転車の移動中に着けられる、デザイン性に優れたイヤーマフが欲しい。その想いをきっかけに、地球に優しく人に優しいエコレザー（環境負荷を減らすなど業界認定基準をクリアした革）を使用したイヤーマフを製品化。「世界で最初にイヤーマフを開発した老舗メーカーのバックイヤーデザインの型に、地元・草加市のタンナーが手掛ける羊革のエコレザーを合わせました。最も気を使ったのは革の厚み。伸ばしてサイズ調節したり、ねじって収納したり、負荷をかけても羊革がもつしなやかな張りが美しく保たれるように0.8mmに設定しています」。

成形材や内側に施したフェイクファーも国内メーカーの素材と技術を用いた“オールジャパン”アイテム。エコマーク認定も取得。「受賞を励みに、さらに進化したエコレザーのイヤーマフをつくりたいと思います」。

審査員特別賞



### 「ロピエ」

さまざまな靴・ファッションとの組み合わせを楽しめる。折りたたむととてもコンパクト。チャームは取り外し可能。1) 特注の金具も取り外し、シンプルに変化。2) 素材の特性を見ながら試行錯誤を繰り返す。3) 初期のイメージボード



細川雅彦さん

MASAHIKO HOSOKAWA

### 選評

ニーハイブーツを履きたくても自信がない人にぴったりの作品。革の長さ調節ができるのも便利だし、ルーズソック感覚で履けてしまうのもとてもいいと思う (40代女性)

### DATA

ロピエ  
住所：兵庫県篠山市西町5  
Tel：079-506-0677  
www.lopie.co  
Facebook.com：ロピエ



2



1

## 革にしかできないブーツレギンス

一見すると、ただの筒状の革。しかし、足を滑り込ませればぴたっとフィットし、ほどよいたるみが美脚を演出する。このシンプルな美しさに至るには、長い道のりがあったという。

「革を扱ったのは、今回がはじめて。私は代々続く絹織物の六代目なんです」。細川さんはもともと絹織物を使った商品開発に取り組んでいたが、思い描いた美脚グッズのイメージに合う素材が、革だった。すべては手探り。最初は金具やガーターベルトで全体を支えるかたちだったが「履いているうちに下がってしまい、うまくいかなくて」。そこで、革の性質を生かす方向にシフトし、革を薄く加工してストレッチを効かせた。結果、ずれない上にシンプルでより美脚を強調するデザインに到達できた。アイデアと、そのシルエットが目を引き作品だ。



3

Web投票特別賞

「アートフィアー」

3Dの完成図から図面を起こし独特の立体美を生んだ。1)「打ち合わせのたびに刺激を受けます」とタンナーの鹿野さん(右)と工房の葉杖さん(左)。ともに試行錯誤。2)受賞作のほか2色を展開。3)店にはコラボ商品が並ぶ



由利佳一郎さん

KEIICHIRO YURI

選評

オリジナリティのあるフォルムで、色使いが美しい。服のアクセントになるバッグ(30代女性)。色・デザインともにひと際目立つ。都会的でキャリアウーマンのオフに似合いそう(50代男性)

DATA

アートフィアー  
住所：兵庫県豊岡市中央町  
8-4  
Tel：0796-23-5408  
www.artphere.com



2

1



3

## 歴史ある革素材に“新しさ”を追求

新素材の開発に焦点を合わせ、ゴールに見据えていたのはグランプリただひとつだった。それほど力を注いでいた。「残念でした」。受賞の感想を聞くと、由利さんはそう答えた。

半年の製作期間を経て完成したのは、軽やかで色鮮やかなハンドバッグ。武骨なラクダ革とは思えないふんわりとした風合いは、ペロア製法と波立つような型押しによるもの。「ラクダ革は靴に使われることが多い。そのイメージを払拭する狙いがありました」。緑の赤い模様は、通常布地に用いられるフロッキー加工を採用した。これも挑戦のひとつだ。デザイナーとして、革という素材の可能性を見つめ直すことが皮革業界に必要だという考えの下、地元である豊岡鞆の伝統技術を生かしながらつくり上げた。本作には、新しい革の可能性が詰め込まれている。

## 革から生まれた日常のアイデア

旅先や移動中のちょっとした時間に多用しているのが、本ではないだろうか。読書家にとっても、持ち運び開いて閉じてを繰り返される本にとっても、大変役立つのが、本を保護する日本製皮革のブックカバーだ。しかし世のブックカバーの難点は、本のサイズ違いに対応できないこと。こういったユーザーのかゆいところに手を届かせてあげるような作品を発想・製作し、アマチュア・メンズ部門を受賞したのが、奈良在住の伊藤玄さん。

「本を毎日読むので、革のブックカバーの試作は個人的にしていました。いつかは仕事にできればと思っている矢先、腕試しのつもりで応募したら受賞して、うれしくて、そして驚きました」

本の厚みが増減しても、革をスライドさせて適宜伸び縮みするよう設計された背幅があるため、さまざまな厚みに対応できるアイデア。そこに、毎日持ち歩きたくくなるような革の風合いが加わって美しい作品に。

### 選評

アイデアがよくて、革の風合いも感じられる（30代女性）。ありきたりでない、セバレートなブックカバーという着想がおもしろい（30代男性）。革だけど軽いと感じました（30代女性）

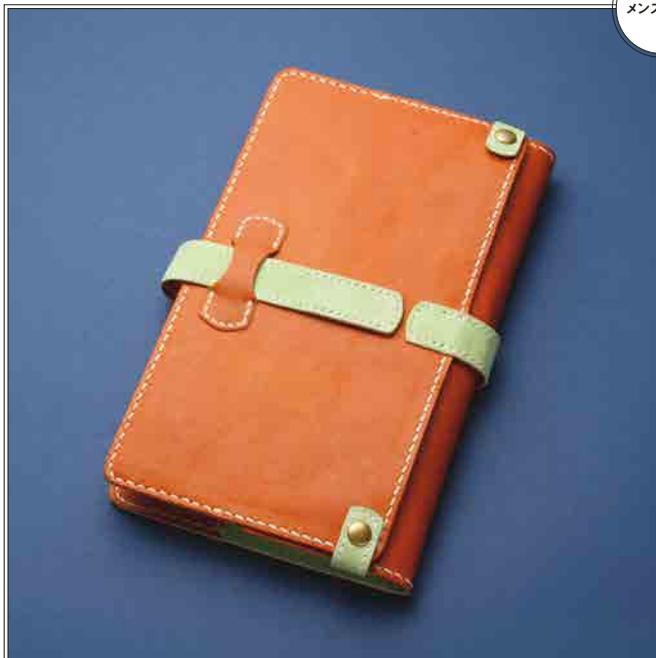
### 「ブックカバー」

同じ新書サイズの本でも、新書、ノベルス、コミックでまったくサイズも厚みも異なっている。それらをひとつのブックカバーで使えるようにデザイン。革を使用しつつ重厚感がないように考えられている



伊藤 玄さん

GEN ITO



メンズ部門

## アマチュア部門賞

レディース部門



### 「メッシュのトート Bag」

機能一辺倒なデザインではなく、スマートでありながら女性のおしゃれを考えた革バッグ。旅からの帰宅時、お土産をたくさん詰められるように柔らかな革のみならず、収納スペースもしっかり確保されている



中島 博子さん

HIROKO NAKASHIMA

## 旅のおしゃれは革からはじまる

アマチュア・レディース部門の受賞作品は、日本の革の上質な質感と軽やかさが両立したレディースバッグが選出された。

暖色から寒色までポップな色合いに染められたレザーを、メッシュの編み上げのようにあしらったバッグには「キュート」という言葉がよく似合う。このキュートなセンスの持ち主が、岐阜市在住の中島博子さんだ。

「こういったものが好きでつくっていたので、今回受賞させてもらって本当にありがとうございます。旅に出る、そんなときちょっとおしゃれをしたいのがバッグで、デザインはシンプルに、色は黒、そこにカラフルな色を虹のように編み込みました」

心地よい旅のための要素として、大きさは機内持ち込みできるサイズとしてつくられている。旅からの帰宅時、たくさんのお土産を入れられるよう、柔らかな革素材を選んで製作したのもこだわりのポイント。女性の旅ならではの視点が輝いている。

### 選評

持ち手の編み込みが素敵。軽いのもいい（40代女性）。かたかがオーソドックスなのでスーツにも合いそう。ひとひねりが効いてる（40代女性）。ビジネス書類でも使えそう（40代女性）



主催：社団法人 日本皮革産業連合会 (JLIA)

Japan leather and Leather goods Industries Association

[www.jlia.or.jp](http://www.jlia.or.jp)